

# 九州大学の全学教育の目的と目標

## 全学教育の目的と構成

### (目的)

1. 九州大学は、「九州大学教育憲章」に示す「人間性の原則」、「社会性の原則」、「国際性の原則」及び「専門性の原則」にたち、「日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献する」ことを目指している。全学教育は、各学部の専攻教育と互いに補い合いつつ、この目的を達成する上で基盤となる人間的素養を育み、また各学部の専門分野を学ぶ上で共通する基礎的な能力を培うことを目的とする。

### (構成)

2. 全学教育科目の構成は次のとおりとする。  
教養教育科目（共通コア科目、コアセミナー、文系コア科目、理系コア科目、少人数セミナー、総合科目、高年次教養科目、言語文化科目、健康・スポーツ科学科目）、文系基礎科目、理系基礎科目、情報処理科目
3. 全学教育科目は、低年次（1～2年次）での履修を主とするが、高年次（3年次以降）においても履修できるものとする。
4. 総合選択履修方式による履修  
上述の全学教育科目に加えて、学生は全在学期間を通じて、他学部・学科の専攻教育科目を、自己の判断により選択して履修すること（総合選択履修方式による履修）を可能とする。これにより、学生がより幅広く深い教養を培うことができる教育を実現するものとする。

## 全学教育の目標

### (一般的目標)

1. 高校教育との接続を円滑にし、大学教育への適応を促進する。
2. 社会の変化と学問の進展に対応しうる感性と能力を育成する。
3. 学問への理解を深めるとともに、関心の幅を広げ、大学における学習の意欲を高め、自ら学び取る能力を養う。
4. 大学院においてあるいは社会において継続的に学習を進める上で、基礎となる能力を培う。
5. 国際社会の一員としての自覚の醸成とその基礎となる能力を養う。

### (授業科目ごとの目標：教養教育科目)

6. 教養教育科目は、良識を備えた人格の陶冶を主眼に、指導的立場に立つべき市民としての素養を育成することを目標とする。具体的には、自ら問題を発見し、あるいは提起される問題に対する的確かつ総合的な判断を行うことができる能力、そしてその判断を支える関心と知識の幅の広さ、社会と学問の変化に対応できる能力及び自立して不断に学ぶ能力を育成することを目標とする。
7. 共通コア科目は、文化や社会、自然の中にある人間存在の成り立ちを基本から考察し、人間の尊厳や自由の価値についての理解を深め、現下の社会的・国際的課題への関心を養い、学問の有する可能性や社会的意味について考えることを通じて、爾後の市民的生活のために必要となる基盤を形成させることを目標とする。

8. コアセミナーは、高校とは異なる大学における学習への適応を促進し学習意欲を向上させること、及び「読む、書く、調べる、発表する、討論する」等の学問を進めていく上での基礎的な能力を育成することを目標とする。
9. 文系コア科目、理系コア科目、総合科目は、各分野の知識や見解がいかなる問題意識から形成され、その形成にどのような方法やものの見方が働いているかという学問のコアを理解させるとともにテーマの探究を通して学問の面白さを理解させることを目標とする。
10. 少人数セミナーは、大学における学習への適応を促進し、学習意欲を向上させ、人間的な交流の場をつくることによって優れた人格形成に資することを目標とする。
11. 高年次教養科目は、さまざまな分野の専門研究者の教育能力を総合的に生かすことによって、質の高い教養教育を実施し、それによって優れた人材を育成することを目標とする。
12. 言語文化科目は、国際社会を積極的に生きるために必要な、また、専門分野を学習するために必要な外国語運用能力を涵養・向上させ、グローバルな異文化理解と豊かな国際的感覚、国際的教養を育むことを目標とする。
13. 健康・スポーツ科学科目は、精神的及び肉体的に健やかな人間性を有する人材の育成を目標とする。具体的には、生涯を通じた健康・体力をつくりだすための健康科学に関する知識の修得及びその実践能力の獲得、並びに身体を介したコミュニケーション能力の向上を目標とする。

**(授業科目ごとの目標：文系基礎科目)**

14. 文系基礎科目は、現代社会の歴史的認識と人文社会科学の諸科目の教授を通して、文系の学問を学ぶための基礎的な知識や方法を修得させることを目標とする。

**(授業科目ごとの目標：理系基礎科目)**

15. 理系基礎科目は、諸科学を通して理系の共通基盤となる自然科学の基礎的な知識や方法を修得させることを目標とする。

**(授業科目ごとの目標：情報処理科目)**

16. 情報処理科目は、情報社会を積極的に生きるために必要な、また、専門分野を学ぶために必要な情報処理の基礎的技術を修得させ、情報活用能力を育成することを目標とする。

**(総合選択履修方式の目標)**

17. 学問研究の急速な発展やその社会利用の多様な展開に対応して、学習において学生の個性ある多面的な能力を柔軟に発揮させるために「総合選択履修方式」による履修の単位枠を設ける。これにより、学生は、低年次から高年次にわたって、すべての全学教育科目と他学部・学科で開講される専攻教育科目の中から、希望する科目を選択して履修することが可能となり、修得した単位は、卒業単位として認定される。このため、この制度の実効が上がるよう履修指導に努める。

**(教育の実施方法・手段にかかる目標)**

18. 学生の学習意欲をより向上させ、また学習における自発性・創造性の発揮を助けるために、教育の場での双方向性の実現に努める。
19. 学生の学習課程の多様性に応じた修学指導を充実させる。
20. 学生の個性を尊重した教育を充実させる。
21. 効果ある教育を目指して、教育の改善並びに教育能力の向上に不断に努める。
22. 総合大学としての教育機能をもっとも効果的に生かすことができるよう、全学的に協力し一体となって全学教育を実施する。
23. 全学教育科目と総合選択履修方式による履修科目を合わせて教育を行うことで、教育目的の達成を図る。
24. 低年次において履修する学部専攻教育科目及び高年次において履修する全学教育科目を設けることにより、4（6）年間を通して学部専攻教育との連携を図る。